平成２９年度　第１回射水市少子化対策推進委員会　議事要旨

１　開催日時　　平成２９年７月１０日（月）　午後７時００分～午後９時００分

２　開催場所　　射水市役所本庁舎３０１会議室

３　出席者

　(1)　推進委員会委員

　　　石津委員（委員長）、金瀬委員（副委員長）、沢田委員、清水委員、安田委員、

宮田（雅）委員、島井委員、立浪委員、宮田（や）委員、越後委員、山崎委員、小林委員、森瀬委員、古谷委員、楠井委員、二川委員

　(2)　事務局

　　　企画管理部長、企画管理部次長、未来創造課長、未来創造課長補佐、未来創造課員１名、保健センター課長補佐、子育て支援センター課長補佐、子育て支援課員１名

４　欠席者　　明橋委員、上田委員、瀧田委員、朴木委員

会議次第

　１　開　　会

　２　あいさつ

　３　事務局紹介

　４　報告事項

　　(1)　射水市の人口減少の主な要因について

　　(2)　射水市少子化（子育て）関連施策について

　　(3)　射水市子ども医療費助成について

　　(4)　子ども子育て総合支援センター（キッズポートいみず）について

　 (5) 第２回いみずムズムズ婚活パーティーの開催について

　 (6)　その他

　５　閉　　会

≪議事要旨≫

(1)　射水市の人口減少の主な要因について

　資料１を事務局から説明

（委員）　　　合計特殊出生率が上がった理由は何か。

（事務局）　　出生数が増加したことが要因であるが、数値は毎年変動する。長期的なスパンで傾向を見ていく必要がある。

(2)　平成２９年度射水市少子化（子育て）関連施策について

　資料２を事務局から説明

（委員）　　　子育て世帯をサポートする事業を多岐にわたって積極的に行っていることはよくわかる。こういった施策は一朝一夕には成果があがらない。継続していくこと、各種施策を連携していくことが重要である。特に小さい子どもが地域に愛着を持つことが重要であり、こうした教育が重要であると考えるが、どのような事業を行っているのか。

（事務局）　　生涯学習という観点では、三世代交流事業、放課後子ども教室や放課後児童クラブなど地域と連携して活動を行っているが、今後もさらに連携できる事業がないか検討していく。

（委員）　　　行政が中心となってキャリア教育を行っている例が多くある。（石川県輪島市、静岡県掛川市）

　　　　　　　地元にこんな企業があるといった周知をすることが、地元定着につながることから、こうした事業を長い間継続してやって欲しい。

（委員）　　　射水市の施策は充実しているがPRが下手である。PR予算が一桁少ない印象だ。予算がないのであれば、企業を巻き込んで行えばどうか。婚活パーティーについても企業と連携して企画するなどすれば良いのではないか。

　 射水市婚活サポーターズクラブではどんな活動を行っているのか。

（事務局）　　平成２８年１２月に設立した組織である。婚活に係るおせっかい活動がメインであり、イベント時では、男女が円滑に結びつくようサポートしている。現在、研修等を行ながらスキルアップ等を図っている。今年度はサポーターズクラブ主催のイベントを２回予定している。

（委員）　　　富山市高岡市では、小学生が様々な企業を回るコースを設定しているが、射水市ではこうした事業がない。親子を巻き込んで企業活動を知ることができるよう、サポートすることが重要である。

（委員）　　　PRする際には、マスコミをもっと利用すべきである。単独のPRに比べて費用が軽減されるばかりではなく、効果の面で計り知れないメリットがある。

（委員）　　　行政だけでなく、商工会自身も協力して地域の子たちに地元企業を知ってもらえるよう、PRすべきであると考えている。

（委員）　　　射水市の子育て支援は素晴らしいが、住宅を建設する土地がないという話をよく聞く。宅地の開発等が必要ではないか。

（事務局）　　決して宅地がないわけではなく、人気のある土地は早く売れて、それ以外の土地は結構ある。

（委員）　　　県営住宅に住む人が所得上昇により、転居を余儀なくされる場合に、一軒家等は難しい、民間アパートに住むことになる。個別の事情に配慮した支援が必要であると考える。

（委員）　　　若者世帯が所帯を持つときには、住みやすい、愛着があるといった観点に加えて、地域の発展可能性が必要である。新湊地区においては、若者世帯が少なくなっている現状がある。住環境の悪さから同居せず、近隣の牧野地区に転出している。発展可能性のある射水を若者に見せるべき。

　　　　　　　市街化調整区域の壁により、開発を阻害している。思い切った開発等により若者を惹きつけるような夢のある開発ができないか。

（事務局）　　市街化区域の線引きについては、富山高岡広域都市計画の中で決められている。射水市だけの意見ではできない。Ｈ２８年９月に市内３か所において市街化区域が拡大された。今後の都市計画については、様々な状況を勘案しながら富山・高岡広域都市計画の中で決定されていく。

（委員）　　　若者が戻ってこないのは就職先が問題である。住むとなると仕事がないと住めない。射水市の会社のＰＲを積極的に行うべき。

（委員）　　　新築のみならず、空き家の利活用も重要である。その状況について伺う。

（事務局）　　４月に固定資産税の納税通知書の発送にあわせて、空き家対策のチラシを入れたところかなりの反響がある。特効薬はない。継続的に行っていくことが重要であると考えている。

（委員）　　　射水市は住みよさランキングが22位になるなど、ポテンシャルが高い。世帯収入が高く、三世代同居率が高いことから家を新築しないでも快適な生活ができる。おもしろい企業もある。観点を変えて、おもしろい打ち出し方が重要である。

（委員）　　　射水市の会社についてわかる冊子等をそれぞれの年代別合わせた内容で作ってはどうか。

(3)　射水市子ども医療費助成について

　資料３を事務局から説明

(委員)　　　　子ども医療費助成の対象拡大は市民にとってありがたい。利便性の観点ではどのような対応をとっているのか。

(事務局)　　　現物給付による利便性確保、各地区センターでの交付、日曜日の午前中には本庁舎で窓口を開けている。また、１回で１２枚交付しているなど利便性は確保している。

(委員)　　　　所得制限はあるのか。

(事務局)　　　射水市となってからはない。他市では一部設けているケースはある。

(4) 子ども子育て総合支援センター（キッズポートいみず）について

　資料４を事務局から説明

(委員)　　　　施設の外観が旧大門庁舎のままなので、わかりにくいとの意見がある、正面入口内も地区センターとキッズポートいみずとの区別がわからない。わかりやすいサインや、子育て支援施設として柔らかい雰囲気づくりをお願いしたい。

(事務局)　　　中に入ってもらうと、すごく良い雰囲気になっているが、外観についてはかなり堅いのはご指摘のとおりである。子育てにふさわしい外観になるよう検討していく。

(委員)　　　　悩み相談の内容について伺う。

(事務局)　　　１８歳までの子どもであれば相談できる。内容については、多岐にわたる。

(委員)　　　　子どもの発達相談室は予約制となっているのか。

(事務局)　　　初日は予約制であるが、次回からはフリーである。

　　　　　　 運営は、平日のみで午後５時１５分までの営業となっている。

(委員)　　　　キッズポートいみずには空き部屋があるように見えるが、子供の絵でも飾れないのか。

(事務局)　　　図面上では空きスペースに見えるが、そこは吹抜の空きスペースがない状況である。

(5) 第２回いみずムズムズ婚活パーティーの開催について

　資料５を事務局から説明

(委員)　　　　定員１５名ずつの定員に対し、ミドルコースでは男女ともに定員を超えている。すこしでも多くの人の幸せのため、女性の申込２６名にあわせて２６人対２６人で開催できないのか。

(事務局)　　　会場のスペースの関係で不可能である。

(委員)　　　　婚活イベントには雰囲気が重要である。市役所１階で開催とのことだが、他に場所はなかったのか。

(事務局)　　　開催場所については毎回固定ではない。予算との関係もあるが、雰囲気づくりを含めて、場所については、今後検討していく。

(委員)　　　　ミドルコースは３５歳から４９歳とのことだが、３５歳の人は年上の人としか出会えない。何とかならないのか。

(事務局)　　　今回はこういった年齢区分で行っているが、毎回固定するものではない。少しでも出会いが生まれるよう、試行錯誤を重ねながら今後も行っていく。

(委員)　　　　せっかくのイベントなので、ケーブルテレビ等で放映してみてはどうか。

(事務局)　　　プライバシーの問題があることから、不可能である。

(6) その他

(委員)　　　　放課後児童クラブの運営時間について、それぞれの団体で異なっている。午後７時まで預かってくれるところもあれば、午後６時のところもある。働く女性のため、運営時間が延長されるよう、行政として指導できないのか。

(事務局)　　　市が直営で運営しているわけではなく、ＰＴＡや地域振興会などの団体に委託して運営していただいている。画一的な運営は難しいが、こうした課題については、担当課に伝える。

(委員)　　　　平成３０年度以降の少子化対策推進委員会はどうなるのか。

(事務局)　　　少子化対策については、部局横断的に取り組むべき案件であり、こうした委員会は必要であると考えている。一方で、射水市人口ビジョンを作成し、まち・ひと・しごと創生総合戦略において人口減少対策を議論する委員会を展開していることから、重複する面があるのも事実である。

　　　　　　　射水市の重要な課題であることから、引き続き、様々な角度から人口減少対策に努めていく。委員の皆様におかれては、引き続きご協力をお願いしたい。